

生きづらさを抱える人の
身近にいる人も……

発達障がいと カサンドラを考える

～櫻田万里(sora)講演会～



櫻田万里
アスペルガーアラウンド代表

◆「カサンドラ症候群とは……」
発達障がいのひとつである「アスペルガー症候群」の人と情緒的な相互関係が築けないために、パートナーに生じる身体的・精神的症状を表す言葉。

発達障がいの人の「家族や職場の人たち」が抱える悩みについてはあまり知られておらず、相談機関も整っていません。

櫻田万里さんの夫は、2003年にアスペルガー症候群と診断されました。

夫の障がい特性に悩み、対応策がわからず相談できる人もいない日々。なんとか自分を立て直した頃、ネット上で「カサンドラ症候群」という言葉を知りました。

「相談するところがないなら、相談し合える場所を自分で作ろう！」

同じ悩みを持つ人たちの、支援活動に取り組んできた櫻田さん。突き動かす強い想いとは何なのか、じっくりとお話を伺います。

2020
1.19(日)
14:00～16:00

開場 13:30

府中市市民活動センター プラッツ
6階 第3会議室

費用 無料 / 定員 先着50名

主催：府中市市民活動センター プラッツ

TEL 042-319-9703 / FAX 042-319-9714
MAIL moshikomi@fuchu-platz.jp H.P http://www.fuchu-platz.jp/

〒183-0023 東京都府中市宮町1-100 ル・シーニュ5,6階
京王線 府中駅南口直結

申込専用フォーム



<http://bit.ly/2q74E6B>



櫻田 万里(sora)

アスペルガーアライメント代表

櫻田万里さんからメッセージ

私は、2013年から、カサンドラ状態の方を支援する活動を開始しました。カサンドラ状態とは、ASD(自閉症スペクトラム)やその傾向のある方と関わることで心身に支障をきたした状態です。私はASDの診断を受けた夫と息子がおり、カサンドラ当事者です。

私の活動は自助会としてセルフヘルプの力を活かしながら、同時に「その先」の生き方をめざす「カサンドラ脱出プログラム」を実践してきました。カサンドラ状態は他の精神障害の症状と大きく異なる点は、パートナーとの「関係性が要因」であることです。パートナーのASDの特性と自身の持つ課題を同時に受容し、理解していくことが、カサンドラのその先、回復の道すじに続いていきます。

カサンドラのその先に続く道すじには、カサンドラ当事者だけでは乗り越えられない多くの困難があります。

カサンドラ当事者の成育歴、その背景にある風土、慣習が要因としてあるケースが多いからです。

私は、経済的には恵まれた家庭でありながら、両親との確執がある機能不全家族で育ちました。それは、成長するにつれて生きづらさとなり、社会人になってからは、周囲との違和感に気づきながら、自分の生きる場所を探して、結婚生活に入りました。その生きづらさを抱えた自分と向き合うことに決めたのは、二人目を出産した37歳になってからです。私は、今ではASDの夫と出会ったのは、自分にその必要があったからだと考えています。

これまでの私のカサンドラ関連の講演会では、カサンドラ理解と支援を主にお話してきました。今回は、私個人の成育歴や現在もなお続く理解されない社会的背景について織り交ぜながら、お話させていただきます。

参加申込

以下の内容をTEL、FAX、メール、または申込専用フォーム(<http://bit.ly/2q74E6B>)にてお申込みください。

フリガナ ◆ お名前	
◆ 電話 当日連絡がつく連絡先	
◆ FAX	
◆ メールアドレス	

※ご記入頂きました個人情報は、府中市市民活動センタープラッツの事業運営のみに使用致します。